

発行にあたっての主な改定箇所		頁
出荷量	1. 年度別窯業系サイディング出荷推移を最新の統計とした	P 1
特徴	2. サイディングの特徴の1つに地震に対する記載を追加、写真で紹介する構成とした。	P 2 ~ P 4
JIS 規格	1. J I S A 5 4 2 2 の 2 0 0 8 版は、サイディングの最小厚さが12mmから14mm厚品に規格改定され、曲げ破壊荷重等の規格値も変更された。サイディングは3種類あったが、「化粧サイディングと現場塗装用サイディング」の2種類となり「反り基準」が追加された。	P 5 ~ P 8
施 工	2. 禁止事項の(6)「伝い水の原因となる施工」は、サッシ下枠や水切皿板の寸法は、サイディングの表面から30mm程度出るのが望ましいと記述した。	P 1 3 ~ P 2 0
	3. 禁止事項の(4)(8)(15)の文章表現を現実合う文章に変更した。	P 1 2 , P 1 3
	4. 開口部まわり胴縁の取り付け方法(胴縁位置:左右・上下)を変更した。サイディングの幅が100mm以内の物が入るときは、開口部まわりに補強胴縁を取り付けることとした。	P 1 6 , P 1 7
	5. 縦張りサイディング用下地の横胴縁は、メーターモジュールの対応に、横胴縁の間隔1820mm以下を2000mm以下に改定、30mm以上のすきまを確保することとした。	P 1 7 , P 2 4
	6. 通気確保の図において、床下からの気流止めを追加した。	P 1 7
	7. サイディングの割り付け方法を標準事例として追加した。	P 2 1
	8. 防水紙の張り方において下地に耐力面材がある場合と、ない場合を区別表記した。また、「出隅部は防水紙の通し張りもよい」こととした。	P 2 2 , P 4 2
	9. サッシ窓枠下先張りシートがある場合について防水テープ・防水紙の施工方法を追加。	P 2 3
	10. 縦胴縁の場合、土台部等(下屋根部取り合い含む)で強風により発生する防水紙バツキや跳ね上がり防止のため、粘着防水テープで接着することとした。	P 2 3 , P 2 7 , P 3 3 , P 3 6
	11. サイディングの金具留工法が普及拡大しており、金具留め施工法を前葉に掲載した。	P 2 6
	12. 縦樋支持金物の取り付けは金具留めの出隅断面図を追記し、施工を明確にした。	P 2 7
	13. くぎ留めの場合のサイディングの端部からの留め目付け位置を20-35mmとし、下地の位置により、35mm以上もあるとした。	P 3 3
	14. 小ひさし上端とサイディング取り合い部はシーリングで納め、幅10mm程度とした。また、下屋根との取り合い部(捨谷・雨押さえ部)のすき間幅は10mm程度とした。	P 3 6
	15. サイディングとバルコニー・ベランダ部の施工において、防水紙、防水テープの張り方の詳細手順を追記した。また、開口部と外壁との取り合い幅はベランダ手摺壁芯から450mm以上離し、開口部を設置することが望ましいとした。	P 3 7 , P 3 8
	16. バルコニーなどの手すり壁、笠木天端防水テープ接着面の通気箇所を部分変更した。また手すり壁内側の防水床立ち上げ取り合い部は両面粘着防水シート貼りを追記した。	P 3 8
	17. 鉄骨造の標準胴縁間隔は455mmを606mm以下に改定した。	P 4 0
	18. 鉄骨造の隅角部の防水紙は150mm以上重ね、両面粘着防水テープで貼り合わせることにし、通し張りも良いとした。また土台部にロングスター金具を追加した。	P 4 1 , P 4 2 , P 4 3
	19. シーリングのプライマーは、品質劣化防止より開封後は一度の工事で使い切りとした。	P 4 4
	20. シーリング目地清掃の場合、有機系溶剤は使用禁止とし、目地を傷めないよう行うとした。	P 4 7
	21. 1時間準耐火構造の開口部まわりを除くシーリングの目地幅は10mm以下と明記。	P 2 8 , P 3 4 , 3 7 , P 4 4
22. 縦張り上下接合部の中間水切りはすき間幅を10mm程度から10mmと寸法規定に変更した。	P 3 4	
23. 金具留め施工法の場合、入隅・サッシ枠左右の接合部に横ズレ防止のため、片ハット形ジョイナーを用いると良いとした。	P 2 8 , P 3 0 , P 3 2 , P 4 3	
維持管理	24. サイディングのメンテナンススケジュールを見直し、「状況に応じて張り替え」が必要と記載した。	P 5 1
リフォーム工法	25. 窯業系サイディングの耐震断熱リフォーム工法「SAT工法」の紹介です。	P 5 4